

# 佐久間彊先生の死を悼む

小 滝 敏 之  
(千葉経済大学学長)

千葉経済大学の初代学長として、本学の発展に尽力されてこられた佐久間彊先生が、本年夏、御逝去されました。佐久間先生は、本学の母体である千葉経済学園の理事長として、また晩年は名誉理事長として敏腕を揮われてこられたほか、かつては行政官としても活躍されておられました。先生の数々の御功績を振り返るとき、改めて偉大であったお姿が偲ばれますとともに、先生の死が悼まれ、惜しまれるところであります。

九月二十二日、学園葬が執り行われました際、私は葬儀委員長として、告別の辞を述べさせて頂きました。また当日は、中曽根康弘（元内閣総理大臣）、鶴岡啓一（千葉市長）、荒木慶司（消防庁長官）、川並弘昭（日本私立短期大学協会会長）、長戸路政行（千葉県私学団体連合会顧問、敬愛学園理事長）の各氏から、心のこもった丁重な追悼の辞を賜りましたほか、多数の私学関係者、官界政財界の方々にも御参列賜りました。

以下に当日の告別の辞を掲げさせて頂きますが、ここに改めて今は亡き佐久間彊先生に深甚なる哀悼の意を捧げ、御冥福を祈りたいと思います。

## 葬儀委員長 告別の辞

「人生古（いにしえ）より誰か死なからん」と、古来いわれてまいりました。とは申せ、去る七月二十六日、学校法人千葉経済学園名誉理事長、佐久間彊先

生を失いましたことは、ご遺族の悲しみはもとより、学園関係者のすべてにと  
って、誠に痛恨の極みであります。

本日、学園葬を執り行うにあたり、私、まことに若輩・未熟の身ではありま  
すが、出身の高校・大学ならびに官庁と本学園を通じ、大先輩たる先生の後塵  
を拝し、また先生の訾咳に接してきた縁（えにし）をもって、葬儀委員長の大  
役を務めさせて頂くことになりました。誠に僭越ではございますが、ここに謹  
んで先生のご霊前にぬかずき、衷心より告別の辞を申し上げる次第であります。

故佐久間彊先生は、大正五年十一月、本学園の創立者であり初代理事長であ  
られた佐久間惣治郎先生の御長男として出生され、その後、千葉中学・武蔵高  
校を経て東京帝国大学をご卒業後、昭和十六年、本日御臨席賜っております元  
内閣総理大臣・中曽根康弘先生の同期のお一人として、内務省に入省されまし  
た。地方行政の業務も束の間、陸軍に応召され軍務に就かれることとなりまし  
たが、昭和十七年には、淑子夫人とご結婚なされておられます。終戦後は、召  
集解除とともに公務に復帰され、内閣法制局・千葉県庁・地方自治庁等の勤務  
を経られた後、自治大学校長・自治省行政局長さらに消防庁長官の職に就かれ、  
地方自治の振興ならびに消防防災行政の推進に力を尽くされてまいりました。

昭和四十四年、退官されました後は、千葉経済学園の理事長として御尽力さ  
れるとともに、一時、本学附属高等学校長や短期大学長を兼務され、また大学  
開設後は大学学長の職を兼務されながら、ひたすら本学園の発展に向け、陣頭  
指揮にあたってこられたのであります。先生のお名前の記された卒業証書を頂  
いた卒業生は、高校・短大・大学を通じて、数知れないほどであります。その  
間先生は、日本私立短期大学協会の会長も務められ、短期大学全体の振興・充  
実のためにも尽力されました。

平成十六年、理事長職を退かれてより後は、名誉理事長のお立場から、学園のあり方について、種々ご助言を頂いてまいったのでありますが、一昨年来体調を崩され、治療の甲斐なくご逝去されましたことは、まことに残念であり悲しみに耐えません。

先生は、かねて、「健全な民主主義社会を建設するためには、私学の振興は不可欠の要件である」と申されておりました。本学園の経営のかたわら、一時、県私学さらには全国私学の振興に資する仕事の一端をも担われてまいりました。晩年には御長男・勝彦氏が学園理事長職を引き継がれ、また御次男・達郎氏が理事・事務局長として学園業務を支えておられますので、先生にはいささかも心残りはなかったものと拝察いたします。今後、残された私ども教職員一同は「片手に論語、片手に算盤」という建学の精神を守りながら、先生の築きあげられた伝統を踏まえて、今日の私学を取り巻く厳しい環境の荒波を乗り切り、学園を充実発展させていくよう奮闘努力することを、ここに心からお誓い申し上げる次第であります。

本日、先生の御遺徳を偲び集まって頂いた多数の方々、とりわけ御多忙のなか御参列賜った中曽根元内閣総理大臣、井上元参議院議長を初めとする政界人、石原元内閣官房副長官ならびに歴代自治省事務次官・消防庁長官など行政関係者、日本私立短期大学協会会長を初めとする私学関係者、ならびに千葉市長を初めとする地元政財界の皆様方に心より感謝申し上げながら、学園教職員を代表して、佐久間彊先生のご霊前に限らない哀悼の誠を捧げ、告別の辞と致します。

平成十九年九月二十二日

葬儀委員長 小滝 敏之